

厳かにかずら橋渡り初め



3年ぶりに架け替えられた、国指定重要有形民族文化財である祖谷のかずら橋で2月18日、落成式と3世代夫婦の渡り初めが行われました。神事やテープカットなどに引き続き、蔵下一豊さん宅の3世代夫婦(山城町引地)を先頭に、ゆらゆら揺れる真新しい橋を、市長やかずら橋保存協会の関係者らなど約50人がゆっくり渡りました。祖谷のかずら橋はたくさんの観光客が訪れるスポットで、3年に1度、カズラの老朽化に伴う架け替えをしています。

子育てを楽しもう



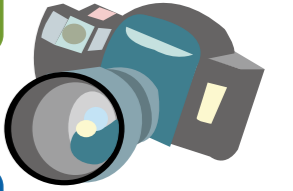
たくさんの子育て中の方が参加した、はぐくみシンポジウム in 三好市が2月15日に池田総合体育館で開催されました。まず記念講演として「ズッコケ三人組」で有名な那須正幹氏から、「子どもにぼんやりする時間を与えて」など子育てのアドバイスをしていただきました。そしてパネルディスカッションでは、飯泉県知事や児童委員、育休を取得した経験を持つ男性職員などを加え、子育てに関する意見を交わしあいました。

寒さに負けず好記録続出



三好郡市陸上競技協会主催の第8回小学校駅伝大会が、2月14日に行われました。大会には男子9チーム、女子7チームが参加し、1周800mの吉野川運動公園周回コースを1人2周走り、6区間で競いました。好天のもと、子どもたちは保護者やチームメイトの声援を受け、懸命にたすきをつなぎ、男子は池田小A、女子は足代小が優勝しました。チームによる駅伝競走の後には、個人によるオープンクラスの競争も行われました。

まちかど フォト ニュース



おもしろいこと、珍しいもの、
どんなことでもいいので耳より
な情報をお知らせください。

三好市役所 秘書広報課
☎0883-72-7646

四国の地酒を飲み比べ

第10回四国酒まつりが2月21日に開かれ、県内外からたくさんの方が詰めかけました。阿波池田商工会議所では試飲会が行われ、ずらり並んだ四国の銘酒38選を飲み比べることができました。また、酒蔵が開放された市内の今小町、三芳菊と芳水では、酒蔵内部をくまなく見学することができました。酒造りの歴史や文化を学べるほか、蔵人しか味わえなかった搾りたての新酒をその場で味わい、皆さん心地よく酔っていました。



スポーツの楽しさを実感



池田総合体育館において、スポーツマーケット2009が2月21日に開催されました。これは三好市スポーツ少年団が主催したもので、市内の小学生と池田高校の生徒とがスポーツで交流をしました。子どもたちはスポーツの楽しさと、高校生と触れ合う楽しさを学びました。種目はバスケット、バレー、ハンドボール、サッカー、ソフトテニスで、子ども達は慣れ親しんだ種目で指導してもらったり、初めての種目に興味を持つなどしました。

「おもてなし」の質を向上



県西部の観光地を訪れたお客様に「再度訪れたい」と思っていたため、宿泊や飲食、土産物店などを対象とした接客研修が、2月20日に道の駅大歩危で行われました。この研修は、にし阿波観光圏整備事業の一環として行われたもので、県西部の観光業者等から24人が参加し、第一印象の重要性、話し方や表情など好印象を与えるポイントについて研修を受けました。また増加傾向にある外国のお客様へのおもてなしの基本についても学びました。

海の子と山の子の交流



西井川小学校(4年生11人)と、美波町の伊座利校(小中併設校18人)とが2月20日に井川スキー場腕山で交流をしました。夏は伊座利で磯学習、冬は井川でスキー学習というこの両校の交歓学習は平成13年から毎年続いており、今回で9回目。お互いに楽しみの恒例行事となっています。子どもたちは、久々に会う友達と話をしたり、スキーを教えあったりと交流を深め、友情を確かめ合っていました。

ストップ温暖化



三好市出身の、岡山県環境保全事業団環境学習センター「アスエコ」の所長である中平徹也さんによる講演会が、市中央公民館において2月14日に開催されました。講演では、海面上昇や砂漠化などの世界の異常気象を紹介し、「普段の生活を見直して、小さな取り組みを積み重ねていきましょう」と語りました。また、三好市女性連絡協議会が取り組んでいる、古新聞で作ったエコバッグを来場者に配布し、温暖化防止策の一つとして呼びかけました。

今年も文化で交流



今年で4回目を迎える三野文化まつりが、2月8日に三野体育館において開催されました。体育館の舞台上では、19団体約280の方が歌や踊り、演技などを披露しました。他にも、児童生徒の作品や生け花、書道、写真などさまざまな展示コーナーもありました。文化まつりには、市内文化協会各支部からの出演や、昨年「怪遺産」に認定された山城大歩危妖怪村の妖怪たち6体も駆けつけ、今まで以上に文化交流が図られました。

おもてなしするために



2月2日から3日にかけて、体験型観光研修会が開かれ、近隣市町の延べ80人が参加し、講演や実践研修会などが開かれました。研修2日目には三野町特産品のはっさくジャム作り体験をとおして、インストラクター養成のための実践研修が行われました。衛生面や安全面での配慮や、体験者への指導ポイントなどの説明がされました。今後、地域の資源や特性を活かした体験型観光が市内に広がり、交流の輪が広がることを期待されます。